

司法試験・予備試験の論文答案のための shihou.sty

石丸将司

2018年9月2日

目次

1	はじめに	2
2	インストール	2
3	仕様の解説	3
3.1	文字数	3
3.2	行数	3
3.3	文字サイズ・用紙サイズ	3
3.4	タイトル	3
3.5	ナンバリング	4
3.6	丸数字	5
3.7	ページ番号	6
3.8	その他	6
4	作例	6
5	おわりに	6

1 はじめに

司法試験・予備試験の論文答案は、司法試験で最大8ページ（196行）、予備試験で最大4ページ（88行）にもわたり、ペンで一気に清書していると手がとても疲れるだけでなく、とても時間がかかってしまいます。そのため、普段は答案構成だけで済ませることも多いわけですが、やはりフルスケールの論文をきちんと書くことは、重要です。特に「あてはめ」の練習は、答案を実際に書かないと、なかなか難しいです。

Wordで書こうとしても、論文答案独特のナンバリングが上手く表現できないという問題点があり、いまいちです。一太郎なら、岡口基一判事が作成されたマクロがある^{*1}ので、これを使うこともできますが、そもそも私は一太郎を持っていません。

そこで、TeXの出番です。TeXなら、自動で連番を作ることができます。論文答案のようにナンバリングが規則的なら、enumerate環境を利用することで、論文を書くマクロを作ることができるはずだ、と思い、作成しました。

なお、今回初めてスタイルファイルを本格的に作成しました。よって、今ひとつな部分、クソ仕様など、色々あるかとは思いますが、ご容赦ください。

2 インストール

インストールは、他のスタイルファイル同様に、適切な場所^{*2}に置いてください。必要に応じて、mktexlsrをやってください^{*3}。

なお、行数を数えるために、linenoパッケージを使用しています。TeXをインストールしたときに標準で入っていることが多いようですが、入っていないなら、これもインストールしてください^{*4}。

また、otfパッケージも使っていますが、これは標準で入っているのではないでしょうか？（要検証）

使うときは、これまた他のスタイルファイル同様、プリリアンブルに\usepackage{shihou}

^{*1}「連番ランク目次インデント自動作成」<https://www.vector.co.jp/soft/win95/writing/se180653.html>

^{*2}適切な場所ってなんやねん、って感じかもしれません、これはお使いの環境によりますので、これ以上なんとも言えません。すでにインストールされている sty ファイルと同じ場所に置いておけば、大体はOKです。

^{*3}やり方は簡単です。コマンドプロンプトで「mktexlsr」と入力して実行するだけです。数十秒後、「Done.」と出ればOKです。

^{*4} <https://ctan.org/pkg/lineno>

と書けば終わりです。

3 仕様の解説

3.1 文字数

一行に何文字書くかは、人によって様々だと思いますが、ここでは 28 文字にしています。伊藤塾や LEC の論文問題集は、27 文字にしているようです。他の予備校は調べていません。

なお、私は字が大きいので、一行に 27~8 行書くことは、ほとんどありません。よって、手書き答案をそのまま入力すると、実際よりかなり行数が少なめになります。まあ、行数は、参考程度だと思ってください。

3.2 行数

前述の通り、`lineno` パッケージを使って行数を表示するようにしています。これは `shishou.sty` の中で読み込んでしまっているので、プリリアンブルに `\usepackage{lineno}` と書く必要はありません。

ただし、行数を表示させるためには、`\begin{document}` の後に、`\linenumbers` と書いてください。

3.3 文字サイズ・用紙サイズ

文字サイズは好きな大きさでも良いですが、17pt にするときれいになるようになります。用紙サイズは A4 を推奨します。

一行目に `\documentclass[17pt,a4paper]{jsarticle}` と書いてください。

3.4 タイトル

ヘッダーにタイトルを入れるためのコマンドは、`\title{hoge}{f}{g}` です。引数を 2 つ取ります。1 つめの引数は科目名で、2 つめは内容です。過去問なら出題年度などを、答練なら答練の名前などを書いてください。例えば、`\title{hoge}{憲法}{旧司法試験平成 18 年度第 1 問}` と入力すれば、「科目：憲法 内容：旧司法試験平成 18 年度第 1 問」と出力されます。

3.5 ナンバリング

いよいよ、メインのナンバリングです。「第1, 1, (1), ア, (ア), a」という6段階のナンバリングを用意しています。本当はその下に「(a)」というナンバリングもあつたら良いのですが、enumerate環境で7段階以上設定すると、「too deeply nested」というエラーが出来てしまいます。それを回避する方法もなくはないのですが、今回はとりあえず、「a」までにしておきます。「(a)」を私は答案で一度も使ったことがないのですが、皆さんはあるのでしょうか。

各階層に対応した環境があり、本文は\item{}の引数として書く、という形です。まあ、通常のenumerate環境と使い勝手は同じのはずです。

第1	daihogee
1	tatehogee
(1)	kakkonhogee
ア	kanahogee
(ア)	kakkokhogee
a	alhogee

最後のeは、enumerateのeです。「tate」は、アラビア数字を「タテイチ、タテニ、タテサン、…」と読む受験業界の慣習に従つたものです。(1)は真ん中にn(numberのn)が、(ア)は真ん中にk(kanaのk)があることに注意してください。

なお、ここでは、そうなつていませんが、shihou.styではこれらのナンバリングを、otfパッケージの文字を利用して、全て全角1文字で表現するようにしています（「第1」はもちろん2文字、ということになりますが）。

連番の環境

```
\begin{daihogee}
  \begin{tatehogee}
    \begin{kakkongehee}
      \begin{kanahogee}
        \begin{kakkokhogee}
          \begin{alhogee}
            \end{alhogee}
          \end{kakkokhogee}
        \end{kanahogee}
      \end{kakkongehee}
    \end{tatehogee}
  \end{daihogee}
```

\item{}の引数は、全角空白から書き始めてください。全角スペースが気に入らないなら、もちろん\quad でも良いです。引数のなかで\\を用いて強制改行しても良いですが、その場合も全角空白を忘れないでください。空行を用いて改行しても、同じです。

必ず、上の囲み枠のように、上位のナンバリングの下（中）に下位のナンバリングを入れるようにしてください。したがって、「第1」を省略して「1」から論文答案を書き始めたい人もいるかもしれません、daihogee 環境を使わずに tatehogee 環境から書き始めてはいけません。必ず「第1」から始めてください。いきなり tatehogee 環境から始めても、コンパイルは通りますが、レイアウトがぐちゃぐちゃになります。まあ、形式的に1行目は「第1 ほげほげ」とでも書いておいて、2行目からスタートだと思ってください。ここが一番のクソ仕様かもしれませんね。まあ、勘弁してください。

3.6 丸数字

TeX でキーボードから直接「丸数字」を入力すると、文字化けしたり、何も出なかったり、という経験は誰もがしたことがあると思います。それを解消すべく、ここでも otf パッケージの丸数字を利用して、入力できるようにしました。\\maruichi のように、maru の後に数字を付ければ OK です。数字は、ichi, ni, san, shi, go, roku, shichi, hachi, kyu, jyu の要領で、①から⑯まで用意しています。

要件を列挙したり、違憲審査基準を書くときなどに、便利です。

3.7 ページ番号

自動的にフッターに表示されるようになっています。何もする必要はありません。

3.8 その他

文字が大きすぎるって？ それなら、印刷するときに、プリンターの設定で、2枚並べて印刷する、とかすれば、良い感じかもしれませんよ。

4 作例

例として、平成18年度の旧司法試験の憲法第1問の答案を添付しておきます。この答案は私が書いたものですが、内容には突っ込まないでください（笑）あくまでも、入力方法や出来上がりをチェックするために使ってください。

5 おわりに

冒頭でも書きましたが、本格的なスタイルファイルを作ったのは初めてのことだったので、わからないことも多く、大変でした。技術がないせいで、クソ仕様っぽいところもたくさんあるかもしれませんが、笑って流すか、改善案を教えてください。

そもそも、司法試験・予備試験の論文答案を TeX を使って書こうと思う人が何人いるかわかりませんが、そのような TeX 愛好家の方は、ぜひ連絡をください。「TeX 法曹会」（仮称）でも作りましょう。

shihou.sty の作成に当たっては、以下の参考文献やサイトを参照したほか、TeX フォーラム^{*5}で質問し、それに対して頂いた回答のアイデアが生かされています。ここにお礼を申し上げます。

このスタイルファイルを使って、論文の勉強を頑張りましょう！

参考文献

本文中に掲げたもののほか、

^{*5} <https://oku.edu.mie-u.ac.jp/tex/>

- [1] 奥村晴彦・黒木祐介 (2017) 『改訂第 7 版 L^AT_EX 2 _{ε} 美文書作成入門』技術評論社
- [2] 藤田眞作 (2010) 『L^AT_EX 2 _{ε} マクロ作法』ピアソン桐原
- [3] 熊澤吉起さん (滋賀大学) のサイト

<https://www.biwako.shiga-u.ac.jp/sensei/kumazawa/tex/005.html>

※ここに挙げたカウンタのページの他にも、様々なページを利用させて頂きました

- [4] 「TeX のカウンタに全角数字を使う Comments」(はてなブログ, いろいろ@はてな, 2008 年 1 月 24 日)

<http://d.hatena.ne.jp/foodp/20080124/p1>